週刊 時事経済

発行所
平市南町71
株式会社
時事経済新聞社
主幹　田原登
電話　4775
毎週　土曜日発行
定価3ヵ月　百円
一部　五円

勉強で評判の店
丸萬家具店
店舗　平市四丁目　電六六三三
工場　平市白銀町　電六六三四

五市側話し合いに応ずる
近く常磐交通と折衝
公営バス問題、新段階に入る

五市公営バス問題は運輸省の国友自動車局長から常磐交通並びに五市側に対し〝話し合いの場を運輸省内に持つから話し合って解決して欲しい〟と申し入れがあった。これに対し常磐交通側は直ちにこれを承諾した。

一方五市側はこれに対して話し合いに応ずるか、或はこれを一蹴して飽くまで既定方針で進むかについてその態度を決するべく、先づ平市は十一日公営バス特別委員会を開いて協議の結果話し合いに応ずることを申し合せた。

次で十三日午前五市長（管理者会）が平市に集まり。午後二時からは五市の特別委員会を招き種々協議の結果、異議なく話し合いに応ずることになった。

而して五市側は今後常磐交通と運輸省において膝つき合せて話し合うことになったが、五市側としては昭和三十四年一月にバス運行の免許申請を出した基本方針を堅守して常交側の賛成を得ようとする方針で話し合いの場に臨むらしいが、常交としては五市側の要求条件を全面的に容認できるなら問題はないが、そうは行かないとすれば相当長い期間折衝は続けられるものと見られ、また、運輸省としてもこの間の妥協案を準備しているのかも知れず成行きは非常に注目されてきた。

五年後に合併目途
石城広域都市建設協を結成

石城市町村協議会は去る十日、十二カ市町村長、並びに議会議長らが県石城事務所会議室に会合、石城を一円とする広域都市建設促進協議会を結成、会長に諸橋平市長を選び五市合併だけでなく全町村も加入した大都市自治省は基幹都市建設計画を立て奨励しているが、この線に沿って今後五カ年以内には合併に踏み切る計画で各種の必要な調査資料をまとめることになった。

一方県では石城の大都市建設は川前村を除いて、全市町村と双葉郡久の浜町、大久村を入れた人口三十余万大都市建設を計画自治省に要望しており愈よ、石城の大都市建設の夢も遠からず実現する見透しとなってきた。

基幹都市として政府の指定を受ければ、重化学工業地帯として一大飛躍するワケである。現在の世帯と人口は、五市が五万五千六百五十三世帯、人口二十六万百七十四人、郡部は一万五千四百五十三世帯、人口七万六千四百三十二人、計七万一千百六世帯、人口三十三万六千六百六人である。

子ブタ市開く
平均五千二百円

平市畜産組合では新年初子ぶた市を十日鎌田の家畜市場で開いた。最高値一万五百円、平均五千二百円だった。この日五十頭しか出なかったが、今後は十日置きに市場を開くことになり、次回からは百頭以上は出る予定荒井市農林水産課長は子ぶたは生後四十日後のものを出した方が有利、これから十日置きに市場を開くが百頭以上出る予定で子ぶたが一万五百円の高値のものもあり飼育者は張り合が出て来た。

近く英国に留学
文化講演会の講師青柳氏

来る廿二日平市公会堂日本間で開催される力行会報徳社の文化講演会に、講師として来られる青柳晃一氏は、東京都出身で旧制一高の最後に卒業し、東大文学部に入学、更に大学院に進んで島田謹二教授の比較文学を研究して三十五年度に東大の講師となり、かたわら東海大学の講師にもなっている。

同氏は若冠二十八才で、英、独仏等六ケ国の語学に精通し、在学中から嘱目されていた秀才で英国留学も決定している。

今回の講演は文学を通しての人間性の問題に触れるもので、多大の感銘を与えるものと期待されている。

文化講演会

左記により文化講演会を開きます。多数聴講される様願います

日時　昭和三十六年一月二十二日（日曜日）午前九時
場所　平市公会堂日本間
講師　東大講師　青柳晃一先生
演題　社会と文学

◎入場無料◎

主催　力行会報徳社
後援　平市教委事務局

話し合いの成功を祈る

田原登

五市公営バス問題は新たな段階に突入した。即ち運輸省の国友自動車局長が五市と常交に話し合いの場で解決して欲しいと申し入れたため、常交は直ちにこれに応ずる旨回答し、五市側は十三日協議の結果これまた話し合うことになったのである。

それで遠からず五市代表と常磐交通代表が運輸省に集まって第一回話し合いを行うことになったが、われわれは石城の足の便利と発展のためにこの話し合いが成功するように希望するものである。

思うに運輸省がこうした手を打つに至ったのは五市の免許申請の理由が市民大多数の要望であるから、これをムゲに却下することは民主政治に反することになる。しかし運輸省としては全国のバス網は一応これで充分であり、新たな免許は成るべく避けようとする基本方針をたてているらしく、そのためこの間にあって運輸省はジレンマに陥入った恰好となり、これを打開するためには五市と常交の互譲の精神によって話し合いを行ない解決させるよりほかに途がないと考えた結果、こうした手を打ったものと推察される。

若しこの推測が当っているとするならば、これから開かれる両者の話し合いは過去の行きがかりや感情にとらわれず地域住民の福祉と石城の将来の発展と云う大眼目を基に充分話し合って解決の道を発見すべきである。今後問題になるのは最初に五市側からこうして欲しいと云う条件を持ち出すことになるだろうが、それは既に五市が夫々市議会の決議を経て免許の申請を行ったものである以上、その線に沿った条件が持ち出されるのは筋道であるが、一方常磐交通はしばしば株の公開分譲を声明しているところから察して、利益を五市に分配し、企業に参加權を与えようとするハラもあるように受取れるがこれも又一ツの方法であろうが、只この話し合いは一会社、一個人との話し合いなら案外簡単だが、公共団体である五市はその性格から夫々の機関の諒解や決議の上になさなければならぬ関係等から短兵急に話し合いが出来得ない不便があるので、話し合いは想当長びくことになるだろう。

未だ第一回打合せ会も開かぬ前に問題の妥結の後のことを云々するのはどうかとも思われるが、若しも五市が企業謙虚な気持と互譲の精神を発揮してやらなければ成果を見ることはできない。

×……×

五千万円を保証融資
平市の中小企業に朗報

平市は三十六年度当初予算に小口金融預託金九百万円を計上するという思い切った発展的措置を計画している。平市の小口金融預金は三十五年度に県信用保証協会小口融資分として百万円だけだった。預託金は五倍までの保証貸し付けができるので、これまで五百万円の保証枠が五千万円と十倍の保証が与えられることになり、市内中小企業者にはまたとない朗報になった。

三十六年度当初予算計上を見込んでいる保証預託金は県信用保証協会（小口融資）三百万円、商工組合中央金庫（設備近代化資金）三百万円、中小企業振興協会（機械貸与）百万円、県中小企業団体（店舗改装）二百万円でいずれも一口二、三十万円の小口融資を保証されるこのほか経営診断講習会、経済講演会など中小企業者体質改善に必要な講習会を数多く開く予定である。

角見出岡

力行会報徳社長の野木稔弥氏が豊間の農協から手を引いた。理由はこの農協が立派に一本立ちできる様になったからである。豊間農協は運営が下手だったため崩壊寸前にあった。それは昭和三十一年であった、諸橋市長、当時の鯨岡、荒井両課長らが心配して八方手をつくしたが困りはて、ついに野木社長に救えを求めた▼野木氏は二宮尊徳を崇拝しその仕法で成功している人で早速これを引き受け、爾来再建資金と社員三名を農協に派遣して経営に当って来たが何事も堅実なやり方だから農民の信用を得て五年後にして豊間農協は完全に立直った。最初再建資金の利子は日歩二銭ときめたが今回手を引くに当って無利子としたので農協の方々も新たな感激を覚えた、▼農協に派遣していた三名の職員の給料は報徳社で支払っていたもので、野木氏がこの農協再建に支払った犠牲は物心ともに大きなものがあろう▼豊間農協が再建した喜びは関係者が多いだけに各方面から賛辞を浴びているが、野木社長はこれは社会的に働ける人だと思ったときに援助の手をさしのべている例はまだまだ多い。豊間の中山医院などもその一例で、中山氏が医大に入学中家運が傾き学費にも困ったとき毎月一万円の奨学金を贈り、全財産が借金の担当にとられたのを買戻してやり中山医師はそのため再起でき、堂々と開業している。

ネクタイ　ランドセル　帽子
ワイシャツ　鞄　靴　学生帽
化粧品
バンド
平市二丁目　電5722
平市三丁目大通　電5723
平市駅前大通り　電5721
百合 ひゃくごう

魅惑的な音楽
ロマンチックなムード
に貴方を誘う……
キャバレー
フラワー
平市仲田町
電五八三二

スプリング式
東和シャッター
最高の戸締・最低の価格・最後迄奉仕
久野金物店シャッター部
平市三丁目　電4648

皮手百双売れぬ
日は無いこの酷寒
藤越
平市
紳士皮手袋　三百円―千百円
婦人皮手袋　三五〇円―九五〇円
紳士ボンネルマフラー　三五〇円
スキー用ソックス四五〇円八〇〇円
婦人モヘヤ手袋　三〇〇円
婦人セーム手袋一五〇円―二三〇円
子供純毛手袋　八〇円―三〇〇円
（三階手袋売場）
千双入荷した皮手袋が、一週間で売り切れになり、係の者は嬉しい悲鳴を上げています。良品で、安いことは、お客様がよくご存知。

三航空会社と契約
動物の消臭にモクサン

平市新川町報徳物産株式会社で製造している消臭剤エヤゾル、モクサン、シルバーが、いかなる悪臭物でも直ちに消し飛ばしその偉力は絶大なので東北大法医学部解剖室の三井教授は屍体の消臭が顕著だったため、モクサンは革期的なものと驚ろき、学界にその試験結果を報告したことから学界にも大きな反響を呼んでいる。

上野動物園では昨年から使用し効果をあげ、その他各方面から絶賛をあびているが、既報の如く日本航空会社は東南アジア方面からサル、その他の動物の輸送にこのエヤゾル、モクサン二百本を買入れ試験的に使用した結果、絶大な効果を示したので今後日本航空だけでなく、パン・アメリカン航空とスカンジナビヤ航空の三会社から大量の注文を受け、報徳物産東京支店と年間使用分の契約をこのほど締結した。よって報徳物産では直ちに量産に着手しているが、このほかアメリカの某商社から四百万本の注文が或る大手社から来ており、エアゾル、モクサンシルバーがその第一候補にあがっているなど、モクサン工業の前途は新年から正に洋々たるものがあり、各方面から注目されてきた。

田畑60ヘクタールが潰さる
昨年　工場敷地や宅地に

県石城事務所がまとめた昨年一年間の農地の潰廃は同事務所が許可したもの（一件当り十アール以下）県農地開拓課扱い（同一・七ヘクタール）仙台農地事務局扱い（同一・七ヘクタール以上）のものを合わせて八百九十二件、四十八ヘクタールに達していることがわかった。

このほか国道、県道の道路拡張には年間十四、五ヘクタールの農地がつぶれ、また土地改良事業による農地の潰廃を含めると最低六十ヘクタールに上るものとみられている。これは平市営野球場五〇個分の面積に相当する。潰廃のうち住宅に使用されるのが七割を占め、その他工場道路などとなっている。

農地法に基ずく農地の潰廃状況をみると、所有農地を農地以外のものに使う（農地法四条）潰廃は百八十二件で九ヘクタール農地を他に使用する目的で他に転売、貸与したもの（同五条）は七百六十四件、三十九ヘクタールに達している。特に大きいものでは勿来市の常磐共同火力発電所の貯炭場四・四ヘクタール、平市赤井地区の製鉄工場敷地四・一ヘクタールなどが主なもので、住宅敷地としてつぶれるものは全体の七割にも達している。道路拡張などによる潰廃を除いた四十八ヘクタールの潰廃農地面積を市町村別に見ると平市が一番多く、四条、五条を合わせて十四ヘクタール（二百二十四件）に達し、平市は住宅地としての農地潰廃が多いという。

また勿来市も十四ヘクタール（百二十九件）の農地がつぶれたが、常磐共同火力発電所のほかは住宅、工場敷地などに利用され、次いで多いのが磐城市の十一ヘクタール（二百三十四件）内郷市八ヘクタール（百五十四件）常磐市はぐっと減って一ヘクタール（四十二件）となっている。

町村では平市に隣接する町村に多く、四倉町は一・七ヘクタール（三十八件）好間村一・一ヘクタール（四十八件）小川町〇・五ヘクタール（十一件）の順で、三和村と川前村の純農村だけに農地の潰廃は一件もなかった。結局五市の潰廃面積が大部分を占めている。

議員の改選
二月二十六日
平商工会議所

平商工会議所（会頭山崎賢助氏）議員六十名は来る二月二十六日で任期満了となるので同日改選の選挙を行うことになった。一口一票二口、三票か四票集めれば当選と見られている。

美術品は生きている ⑦
越村立雄

美術品の本物、贋物の判別は中々つけ難いものである事を書きましたが今度はこの偽物について書いてみましょう

この間から世間を騒がしている瀬戸の永仁の壺は一旦重要文化財の保護委会で日本の重要文化財に指定されながら実はあの壺は私が作ったんだと言う人が二人も現われましたしかもこの人達は瀬戸焼の無形文化財（人間国宝）として文部省から指定されているし、有名な加藤唐九郎親子であるに至っては全く唖然とするものがあります。

これは偽作として作られたと云うより鎌倉時代の永仁の壺を模作したものを誰かの悪戯により土中に埋められ、新たに発掘されたかの様に見せかけ、重要文化財の審査委員を誤らせ、遂に重要文化財の指定を受けたものですから作者に罪があるわけではありませんが、模作も其所までになれば、本物以上と云うことです。

大塚巧芸社で作られた巧芸画もよく本物と見違えられます。大観の誤った話は先頃書きましたが、その出来初めは日本画家の大半が誤って巧芸画に本物であるとの箱書をつけたものです。あまり被害者が続出するので、現在制作される巧芸画には作家の印章の外に画面に巧芸画の印章が別に押してあります。

巧芸画は元来が写真で之に手彩色を施したもので事実本物に寸分違わぬものであります。一般の方の細心の注意が肝要です。古来偽作には種々の手を用いて参りましたが、本物をそのまゝ引き写したものや、無落款のものへ名前を書き入れたもの、墨絵のものに彩色を施したもの彩色の落ちたものに彩色を加えたもの等種々ございます。

私が尺巾の立幅で、橋本関雪の描いた秋景山水の幅を持っていました。当時の金で一千円で買ってありました。上の方から四寸ばかり下の方にずっと汚がついているので、この汚のため一寸縁が違かったんですが、私の同業者の竹尾と云う人が原価なら買うと箱書を言うので元値の一千円で譲ってしまいました。

偽作について

この時から半年ばかりたってこの竹尾があの絵を金に困って質入れしたが、もう三カ月の期日が来て流れさうだが金の三百円に利子を加え百円ばかり余分の金をもらいばよろしいからあの絵を引受けてほしいと云う事でした。元金に利子と竹尾に渡す百円を加えても五百円位で足りるので私もすぐ承諾しました。

竹尾と一緒に質屋へ行きこの絵を見せてもらいましたが、どうも少し変なのです。たしかに上段にあった汚が見当りません。私はこの汚の為、売り損じていた記憶がありますからこの絵は元の絵と違うと申して買受けを中止しました。

帰途寺尾にその事を問いただすと頭をかきながら、「いやお目が高いです」「あの絵は贋物で表装、及外箱は全部本物の絵は別に表装し他の箱え入れて売ってしまいました」と告白しましたがこの様な巧妙な手段はよく贋物師のやる手口です。

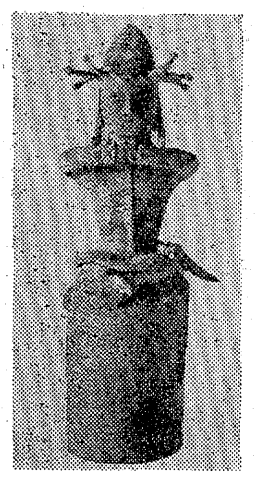
又こんな話もありました。私が知人から紙本に描いた一尺巾の奥村土牛作の鰯六匹の横物を買いました。之を同業者に少々の利益で割愛した所二三カ月後この同業者からあの絵は贋物だから引取って欲しいと申して参りましたから、私も心よく承諾してこの絵を受取ると驚くではありませんか。確か私が売渡した時一尺巾の絵だったのに返戻された絵は一尺五寸巾の堂々たるものです。勿論私もこれを見て承諾するわけには参りません。鰯が生きかえったが、神技でもない限り、一尺巾のものが一尺五寸巾になるわけはありません。しかも同業者は先日のあの絵に違いないと申しますので、一体誰がこんな事をやってのけたかその本人に逢って相談の仕直しをしやようと私も強硬に主張したので、この同業者と連れ立ってその作者である経師屋さんへ行きました。最初経師屋の主人も得意になって「貴方の様な本職の方でも判らない様に出来ていればそれでいゝでしよう」と大変誇り顔に答えていましたが、私の同業者がこれを奥村土牛先生の所へ持って行った所、この鰯の絵は尺五巾に描いた覚えはないと云って箱書を断ったとの事を説明しましたので、漸くこの経師屋が納得して、この絵の種明かしをして呉れました。それによれば、

初め一尺五寸巾の白紙を用意して置きこの紙に鰯の大きさの切抜きをして、さきの絵から鰯丈けを切り抜きこの尺五巾の紙へ移し変えた上この紙に裏打ちをしたものです。勿論落款もその方法で移植したものでした。

この場合一番大切なのは紙のすき間を合せる事ださうです。種明しをされてみれば成程と納得がいきますがよく考えたものですね。

大体尺巾の絵と尺五巾では値段が十倍以上も開きがあると云う事が、こんな事をさせる原因となったものです。

主として絵画の事ばかり書きましたが、陶器だって漆器だって、仏像、茶器、珍器すべてが偽作で充満して居ります。



凍死寸前救う
親切な社員

十三日夜六時半頃人通りもない凍りきった内郷市高坂地内の高坂橋の堤防下に泥酔して倒れ自転車をそのままにして寝込んでいた中年の男があった。たまたま通りかかった人がこの寒さでは凍死してしまうと心配し口もきけなくなったこの男から苦心して事情を聞いた所建前の祝酒に酔いその上チューをしたたか呑んだので帰宅途中にこの始末と判った。親が高坂南区に居住していることを漸く聞き出し佐藤久一郎さんと判ったのでわざわざ高坂の急坂を自転車を押し上げ世話所で番地を探し当てて共々現場に急行して凍死寸前のこの泥酔者を救った。

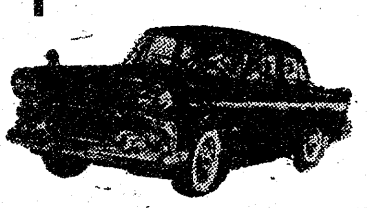
この親切な人は力行会社員の高橋利男君であることが判った。

× × ×

活版・オフセット
カーボン印刷なら
平活版所へ
どうぞ
平市一丁目二九
電話二三〇二番

寒びかん
アメ

いつでもあなたの足になる
タクシーの御用命は
（電代）二一七五・二六四〇
好間営業所は　三五七二
草野営業所は　五六四七
平市二丁目
尼子タクシー



平の代表的土産品
平の生んだ世界的作曲家八橋検校の
作曲せる名曲「六段の曲」を記念する
銘菓　中最六段
六段本舗　平凡　平駅前
電　2509

天保通宝
おかげさまで好評を受けています平市一丁目サカイ食品店で販売しております
天保銭パン店
店主　林正春
平市古鍛治町三一
電（呼）二四八八

折角の慰安風呂を二、三時間もかかる釜は御家庭を暗くします
大好評の許
最高の性能　特大黒保温風呂釜
酷寒中でも燃料代十二円内外で沸きたちます
渡辺工業所
平市正月町一九電四五八三

日立モートル・電気器具販売
各種ポンプ修理販売
那須ポンプ工業所
那須清治
平市正月町六一　電三八〇八

野木稔弥氏が五年間奉仕

豊間農協全く再建

地で行った二宮尊徳仕法

農協経営が紊乱し赤字続きで危機寸前に陥ったのを見かねて、資金と事務職員を送り五ヵ年の年月をかけて立派に立直らせたという殆んど全国にもその例を見ない美談がこのほど明かにされ注目を惹いている。

平市豊間農協は六年前の昭和三十一年経営の不手際から赤字続きで経営が全く出来なくなり、農協監督の立場にある平市長諸橋久太郎氏を始め、当時の商工観光課長鯨岡多久氏、農務課長荒井敬助氏らが本県及び農協中央会更に系統機関などを始め関係方面と折衝してこれが再建に乗り出したが、八方塞がりでどうすることもできず思案に暮れた挙句、二宮尊徳の遺訓を守りその仕法を実践して金融に実業界にめざましい発展をしてきた力行会報徳社社長野木稔弥氏を訪れ、「何とか豊間農協の再建に援助して欲しい」と頼みこんだ野木社長はこの事情をきいて「では一切の経営を任せて欲しい」と早速引受け、農協再建資金に報徳土台金と力行会報徳社の社員三名を豊間の農協に送り苦心経営の結果、農民の信用も次第に高まり出資金も、参百万円資産一千万円（日掛貯金約五万円）を突破、再建全く成ったのである。それで去る十三日平市では議員控室に豊間農協運営協議会を開き、市から荒井課長大槻係長、農協側から橋本組合長ほか役員十五名、再建に努力した野木稔弥氏らが会合、種々協議したが、この席上荒井課長並に橋本組合長から夫々「野木社長の御尽力で再建成ったことは感謝に耐えない」旨の挨拶があった。

野木社長からは「豊間農協は立派に一本立が出来得る段階に来たので私は本日を限り農協から手を引く。然し派遣している三名の職員は来る三月の年度末まで事務に当らせる。報徳社から貸出した資金の利子日歩二銭はこれを無利子とする」と言明、居ならぶ人々を感激させた。更に野木社長は力行会報徳社の性格に言及し「報徳社は金を扱うので世上ややもすると誤解する向もあるが、社団法人大日本報徳社は明治七年の創立で力行会報徳社はその支社であり、今日まで連綿として続いている。戦前は内務省の所管であったが戦後は文部省所管となり、金を扱う部門は大蔵省が主管官庁で監督しその堅実さは既に認められあやしげな町の金融機関とは全く性格が違うのである。いま豊間農協から手を引くことは育て子と別れる様な感傷もあるが今後の豊間農協の発展の為にはこの方が最良の方法と考えたからである。力行会が今日の地位を得たのも皆様方の御支持の賜であり、今後もよろしく御願いしたい」と結んだ。

五年間三人の職員を農協に派遣していたがその給料も全部報徳社で支出して来たものである。次で平市は三十七年に八農協を合併して大農協を組織し、農民が大資本の攻勢に対抗して伸び行くべき時代に到着している矢先、豊間と平窪農協だけは対等合併の条件に欠ける恐れがあるので、三十六年度に豊間は現出資金の倍額増資を断行して合併にのぞむことなどを協議、更に荒井農務課長から野木社長に対する感謝の意志表示は来る五月市長からなされる筈であるが、その前に農協役員の方々と改めて感謝の方法を協議したいと述べ終始美しい感激的な会合を閉おた。

荒井課長の話＝豊間農協が二進も三進も出来なくなり崩壊寸前だったとき野木社長に何とかして援助して欲しいと頼んだのでした。野木さんは「二宮尊徳の遺訓を守っている方で早速引き受けてくれ、再建資金と給料自分持ちで職員三名を農協に派遣し五ヵ年かかって再建してくれました。その資金の利子も一銭もとらないでやってくれました。豊間農協育ての親と云うことができ、大きな犠牲を払われた野木さんにわれわれ関係者は全く感謝しています。報徳社の性格は町の金融と違って二宮仕法によって運営されている堅実な社団法人ですからこの際改めて認識を深めていただき度い。

三本杉博士月末に来平

上荒川にボーリング

温泉開発に会社設立か

平市の温泉計画は昨年福島大学の三本杉己代次博士一行を二回に亘って招ぎ、上荒川、平窪、水石山、山、豊間海岸などの調査を行ったが、更に今月末ごろ三本杉博士一行が来平、調査することになった。上荒川では科学的な調査をした結果、湯が出ることは殆んど確定的であると云われこれが開発をどうするかについて温泉対策委員会（会長強口唯七郎氏）では種々頭を悩ましているが、ボーリングして湯が湧き出るまではその経費を市負担とし、その後の開発は温泉開発会社（資本金約二億円程度）を設立して開発することがよいのではないかとの案も立てている。何れにしても同博士一行の来平三度目の調査後に具体的に今後の方針をたてる計画でいる。

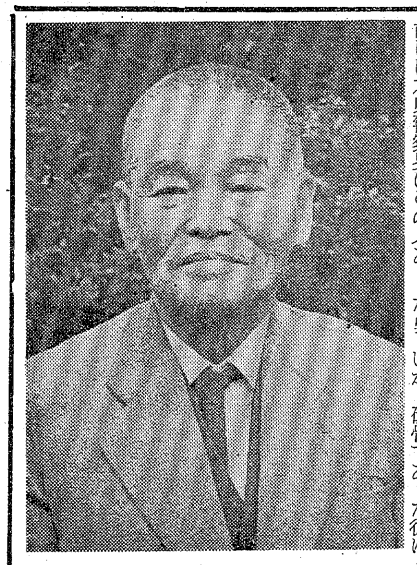
大黒屋の食堂開く

大黒屋ではかねてより四階で大衆向の食堂を開設する準備中のところ、漸く設備全般が整ったのでいよいよ十五日より開業した。現代の嗜好に向くように工夫をこらしてサービスする由で期待されている。

あたりバッタリ訪問記 ㉑

平署長を二度勤む

警察界出身の成功者　伊藤儀七翁



平市公会堂の南通りを西にちょっとはいったところに豪しやな門がある。この家の主人伊藤儀七翁（74）を訪ずれる。応接間にあらわれた伊藤翁は洋服の上に子守が着る色のさめたネンネコを着てさながら百姓家のオッサン然と云った風さい。身なりなど更にかまわないと云う無頓着さである。

この好々爺が今から四十年以前には本県警察界にこの人ありと云われ鳴らした一時代があったことを知る人は今は少ない。

政党政治華やかなりし時代彼は三十五才で抜てきされて平署長となり敏腕を振った。時は大正八年でそのころ石城は政友会の金城湯地、前平市長鈴木辰三郎氏らがめきめきと政友会に乗り出していたころだった。だから反対党の憲政会の人々からは政友会の走狗だと悪口を云われたらしいが、硬骨であった彼は選挙取締りなども意識的に反対党を弾圧しなかった。しかし選挙界の腐敗や目にあまる違反行為には断乎として取締りのメスを振ったと云っている。やがて退官したが、時はめぐって再び平署長を命ぜられたが四十二才のときに辞職して彼は実業界に進出したのである。警察界に在ったころ、いろいろな問題があったようだが、二度も平署長をやったということは現在では信じられないことだが、そのころ福島では内閣が変るたびに、後藤吉之進、佐藤久俊両警視は交互に三回も署長をやったのだから、これから推して見ても当時はいかに政争が激しかったことがうかがわれる。

× × ×

警察署長を引退した伊藤氏は呉羽人絹に入り、労務課長のような仕事をしていたが、建設工事などで人夫を三十人しか使わないのに五十人使ったことにせよとか、私腹をこやそうとする目に陥入った。この炭鉱で伊藤翁は巨万の富を築いたと流布されたが、翁の話によるとそれは誤伝だが、子宝に恵まれず身内の者をムコ養子に迎え十三才を頭に三人の女の子の孫を預って養育している。養子は家出したまゝ寄りつかないので、家庭生活には全く恵まれないとシンミリしていた。応接間には初代総理大臣から前岸首相まで書いた漫画を額に収め、座敷には中国産の貝をちりばめたケンランたる茶ダンスやヨロイ、カブト、刀剣などを飾り、毎日これ好日の余生を楽しんでいる。警察界出身の稀に見る成功者ということができよう。

× × ×

しかし、ではどうして巨万の富を築いた……と質したら、それは世間の流言と云うやつで実のこと、この炭鉱の整理のときに銀行から借りた借金が未だ残っており、家屋敷さえも抵当に入っている。これに関係しなかったならよかったが、千慮の一失で大きな黒星をつけたと残念がっていた。

× × ×

かくて福島炭鉱は再建した。その後終戦を迎えて広野炭鉱の土井氏から協力方を懇望されて経営資金を貸してやったことからだんだん深みに引きこまれ、現場監督までしなければならぬ破目に陥入った。この炭鉱で伊藤翁は巨万の富を築いたと流布されたが、翁の話によるとそれは誤伝だが、子宝に恵まれず身内の者をムコ養子に迎え十三才を頭に三人の女の子の孫を預って養育している。養子は家出したまゝ寄りつかないので、家庭生活には全く恵まれないとシンミリしていた。応接間には初代総理大臣から前岸首相まで書いた漫画を額に収め、座敷には中国産の貝をちりばめたケンランたる茶ダンスやヨロイ、カブト、刀剣などを飾り、毎日これ好日の余生を楽しんでいる。警察界出身の稀に見る成功者ということができよう。

家具のデパート
あるが
本店　平市銀座街　電2223
支店　四丁目　電4295

神経痛・リューマチ
万病にきく
シンノール治療院
吉田知友
平市古鍛冶町
電　三七三八

風光明美　鎌田山の山荘
仙寿園
御宴会にも御利用下さい
店主　渡辺栄咲　電六五一六

溪流絶景
奥飯坂穴原温泉
穴原ホテル
電（飯坂）三六八七

南伊豆海岸
稲取温泉
白雲閣
穴原ホテル支店
電（稲取）三三〇

和洋家具製造販売
すみたに家具店
平市一丁目角（才槌小路通り）
電話　四七一二
工場　平市尼子町専売公社前

パパも
ボクも
森永フアン
一家の健康には
森永牛乳を
味も栄養も
日本一
冬の健康を守る
森永乳業
森永乳業
平販売K.K.
平市5丁目
電2987

築建　株式会社　翁組
土木　平出張所
所長　吉田満
平市田町一ノ四
電話　二〇五六

火災に備えて
中央式消火器
福島県総代理店
援護化学研究所平出張所
平市月見町六四　電五六九二

美術京染・京呉服
白生地一式・洗張り
山田照　京染店
好間南町田二二電平四八七七
湯本店　常磐市湯本町笠井三

不動産売買仲介評価貸家斡旋
公認　平宅地建物取引所
平市才槌小路踏切際色川材木店内　電二三六一番

平地区福対協の店
平指定商チケット
御利用下さい
御婚礼調度家具一式
伊東家具店
平市新川町バス停留所電二四六四

三、九四三人分到着

平保健所に小児マヒワクチン

平保健所に待望の小児マヒ、ワンが少なく、石城地方では医院クチンがこのほど四二七本（三九四三人分）が到着した。同所では直ちに各市町村と打合せた結果、次の通り配分を決めた。カッコ内は対象者数

▽平市　二、〇二三人分（八一七人）
▽内郷市　七三八人（四六八人）
▽常磐市　三四二人（七一七人）
▽好間村　一八九人（一六七人）
▽小川町　二七〇人（一九六人）
▽四倉町　一八九人（九二人）
▽川前村　七二人（七一人）

小児マヒは三十四年に伝染病に指定され、昨年は全国的にまん延して脅威を受けたが、ワクチンが少なく、石城地方では医院で一回七百円（三回注射）で注射してもらっていた有様だったが、今年から予防接種特別措置法により各市町村で優先的に小児（三十四年七月一日から六月三十日まで生れた者）に一回分三百五十円で接種することになった。（保護生活者は全額免除準保護者は四分の三免除）

平保健所管内では注射希望者は四一三九人で今回送ってきたワクチンは二九六人分不足となっているが、二月には更に入荷するので希望者全部に接種することが出来ることになり親たちを安心させている。なお昨年の患者発生は同所管内で二十七人であった。

年頭に当り新聞に望む（下）

新条約に対する考えかたは、良識的、現実的で新聞のあるべき姿として正常だったが、表現に大胆率直さを欠き、ために世論を指導するだけの迫力に不足した。論説は、新聞の心臓部に当たる。その心臓が、もっと強力に鼓動していれば、その活力は、編集全体に健康な血液を送りこんだのだろうが、心臓がその機能をフルに発揮しなかったのは遺憾だった。

総合編集ということがよくいわれるが、単に、整理技術だけのものではなく、論説と編集がバラバラだというような努力が、これからの新聞には要求される。

そして、論説は、堂々と、その主張を表明するための自信を持たなければならず、そのためには、もっと視野を広め、見識を深める努力を重ねなければならない。

▽法秩序の看視を

新聞の不見識については、法秩序の尊重ということへの正しい認識を欠いていることをあげなければならない。安保の単独採決を攻撃した新聞の態度は正しい。

しかし、その反面、議長を力ン詰めにした野党の暴力行為が当日の紙面で、ぜんぜん不問に付されたというのは、正しくない。ルールを無視した行動は、いかなる場合でもきびしく批判されなければならないのだ。

単独採決後の大衆デモの野放図もない行きすぎを、新聞は、あまい態度で受け入れていた。

岸内閣の行きすぎを批判するのあまり、大衆行動の逸脱を許したのが当時の新聞の態度だったこれはまちがっている。しかもこれは重大なあやまちだった。

三井三池争議の場合も、ピケの行きすぎや、人権侵害の行動は、初期の段階からきびしく指摘し、批判しなければならなかったのに、それを見すごしたりあまかったりしたために、しだいに、双方の対立がはげしくなり、ついには、激突して、血の惨劇をくり返すことになった。

民主主義社会では、社会秩序はあくまで守られなければならない。法律やルールが破られて当たり前のような状態になれば社会は混乱する。しかも、新聞が、そうした法無視の行動に寛大な紙面を作っていれば、社会は収拾できない状態におちいっていくのだ。

それは、きわめて危険である新聞は、いつも毅然たる態度をとって、法秩序を守ることを主張しつづけ、社会を乱す行動をきびしく看視し、指弾しつづけなければならない。

▽編集局長の不勉強

その意味で、「暴力を排し、議会主義を擁護しよう」という各新聞社の〃共同声明〃は、正しかった。しかし、惜しむらくは、あの声明の遅すぎたことだ少なくとも、各社が、問題の当初から、声明の趣旨を、身をもって、紙面で実行していたならば、混乱は、もっと早い時期に救われていただろう。いや、それよりも、新聞社は、常住不断、あの声明を座右の銘として実行しなければならないのだ。のど元すぎれば熱さを忘るるでは困る。

そのためには、編集局長、編集幹部が、もっとガッチリと紙面全体を握っていなければいけない。ハンコを押したり、予算のたづなさばきにばかり気を取られたり、お客さんの接待ばかりしていたり、すべて、行政と称する雑用におぼれていたのでは、紙面は決して生きてこない局長や編集幹部は、紙面をよくするために、いつでも全精力を集中していなければダメなのである。

こんなことはわかりきったことではあるが、このわかりきったことが行なわれていないのが実情だから情けない、

▽危険な外部勢力の侵入

編集局の若い記者たちのあいだには、トウトウとして新しい時代の波が、流れているのである。戦後派とか、ヌーペル・バーグとかいわれるこれらの青年たちの心理を理解することは、戦前派の編集幹部にとっては容易なことではない。そういう記者たちに、総評が、組合活動を通じて、思想的な影響を与えてきている。

また同時に、その中枢部が共産主義に通じているジャーナリスト会議が、不断の働きかけをつづけている。そして、これらの組織は、〃新聞を大衆のものにする運動〃を、各社の編集局の中に展開し、また、しようとしているのだ。

この運動は、編集権をおかしついには、それを自分たちの手に収めようと企図しているのである。新聞の機能、新聞の本質をわきまえないこれら未熟な記者たちが、外部の勢力の手先になって、紙面を利用しようとすることほど危険なことはない。

現に、これは、安保騒動の紙面に顔を出した。そして、朝日の編集局長が、この危険を押さえるために、みずからデスクについて原稿を見る仕事をやったところ、新聞労連が、〃局長が事実をねじ曲げた〃と猛烈に攻撃した。

編集局長が、編集の実務を掌握するのは、当然のことであって、むしろ、ふだんからそれをやっていないことのほうがおかしいのだ。労連の批判は、全くマトはずれであり、かつ、これは、編集権の奪取をねらうその本性の露呈であった。

▽道義退廃に流されるな

安保問題にひきつづいて、政変から選挙があった。こうした一連の政治報道は、国民の政治的関心を大いに高めた。しかしその関心が、健全な高まりかただったかどうかは疑問である。

というのは、新聞が、ただ現象面だけ書ききたてており読者の興味を、センセーションによって集めることに、あいかわらず熱心すぎたからだ。

自民党の総裁選挙、総選挙後の組閣人事や、議長人事など、新聞は、派閥や、ボス政治の内幕を追いすぎて、政策面を忘れていた。総選挙では、金と地盤と看板だけを材料に、勝ち馬予想に浮き身をやつし、公明選挙を叫ぶ口の下から、相変わらずのフハイ選挙を黙認した。

新国会の質問第一日に、社会党の山本幸一代議士が、フハイ選挙を攻撃して、「前回の総選挙ですでに違反をおかし、その会計責任者が夫婦で逃走中であり、かつ、今回の選挙で、またぞろその運動員が違反で検挙されているという人物が、憶面もなく閣僚としてヒナ壇におさまっているとは何事だ」とひらき直った。

これは、まさにその通り。選挙法を守る運動を展開した新聞が寛大だった。（日比谷五郎）

美智子妃

斎藤　伊知郎

さよなら一九六〇年のNHK　Hさんは昔の人の芸術を〃愉快になればトコトンまで愉快になる。それが作品に完全に表現されている。理代の作家は、どうも生活がもたらすものか、小利口な思索と小細工が邪魔をする〃というようなことを正直に語る真摯な人の言葉だけに、私は日本人が自由主義とか民主々義という現実の姿を言外に一歩前進していることを許しているのかなと注目して聞いた。

然し私の意固地は、それとは別に理屈づけたいのか、いまだにヒソム天皇絶対礼讃なのか、

「けれども、お二人が飛行機上の人となり、窓より歓送の人々に応えていた時、美智子妃が視線をはずして何やら皇太子に話しかけたものを、皇太子は静かに肩を叩いて「お見送りの方を御覧なさい」というようなことを訓していたらしいお様子に接し、本当に夫婦の親密感と、人間皇太子のポーズに微笑ましいものがありましたと皇太子の肩を持つように逆なことで応答した。

そしてまた、東宮仮御所におかえりになったとき美智子妃が、御出迎えの浩宮にかけよりもせず、たとへ五秒でも十秒でも間をおいてユックリとソット抱くなどの演出。

民間の若い母親であったならば、長途の旅行から帰ったら飛びつくように抱き頬ずりするであろうものを、美智子妃も、皇太子妃らしく振舞うことを要求するまわりの環境と帝王学のしつけに馴れた証拠ですな——と名優の演出。

民間の若い母親であったならば、長途の旅行から帰ったら飛びつくように抱き頬ずりするであろうものを、美智子妃も、皇太子妃らしく振舞うことを要求するまわりの環境と帝王学のしつけに馴れた証拠ですな——と二人に期待を押しつけるような言葉を用い、皇室の尊厳を訴えたのだった。

Hさんはニコヤカに聞いていたが「そうですネ、また私はその時の浩宮の表情が面白いと思った。浩宮は実のお母さんが帰ってきたのにソッポを向いている。そうでしたろう。無心無垢な天真爛漫さが、テレビの画面いっぱいを覆う美しさがあった生みの親より育ての親——赤ん坊は純心ですね」と言うようなことを話された。

私は参った。全くノレンに腕押しだ。なんとなく一人前振って屁理屈をつけたがる一人相撲の自分の浅薄さに恥じ入った。

静かな思索と純粋な鑑識は、権威とか分別、理屈とか常識の型ではないものだと泌み泌みと考えさせられた。

Hさんの顔を見ると「ホホ——そんな見方もあるものカネ」と言った妥協の中にも、どうしても突き抜けることの出来ない晴れ渡った青空のような表情で私を包んでいるのを知った。

（イワキグラフ社長）

竹駒、塩釜神社初詣と
松島、飯坂観光
期日　二月廿一日—廿二日（一泊二日）
募集会員　五〇名
会費　二千八百円
宿泊地　飯坂温泉
平駅前発　廿一日午前七時　バス
同着　廿二日午後五時　平駅前解散
参加希望の方は金壱千円を添え申込み下さい
当日の昼食は各自お持ち下さい
登録第三〇号
力行会観光部
平市紺屋町十一
電平五五二一—二三

平市五丁目
大谷石　井上
電　二〇六六

会株
社式
常磐ヤンマー製作所
平市一丁目　電四三二六・四三二七

1月17日—23日
生きるためには——最後のものまで——待望の問題作登場
ねずみの競走
トニー・カーチス
デビー・レイノルズ
大都会の若者たちの生態を描いたサスペンス・ドラマ
暴走する反抗族
リタ・モレノ
マーク・ダモン
聚楽館

1月15日—20日
ヨーロッパ，ロケの話題作登場
日活カラー総天然色
闘牛に賭ける男
石原裕次郎・北原　三枝
二谷　英明
ジャズは狂つちやいねえ
益田　喜頓・青山　京子
楠　トシエ
日活
平館

特選3本立
東映スコープ
1月15日—20日
旗本退屈男
謎の暗殺隊
市川右太エ門・里見浩太郎
月形竜之助
人形佐七捕物帖
ふり袖屋敷
若山富三郎・大川恵子
五月みどり
続ずべ公天使
七色の花嫁
江原真二郎・山田真二
清川　虹子
21日—26日
突進太郎
砂絵呪縛
桃太郎侍
南海の鬼
東映　三夜東映
大人77円　学生55円　小人40円　早朝割引55

1月17日より
シネマスコープ（サイズ）
地獄部隊の突撃
凄しい戦争映画巨篇！
ニコラシミッチ　主演
監督　ウラジミール・ポガッチ
東和株式会社提供
フランス映画　ビスタビジョン
やるかくたばるか
ジユリエット，メニエル
ベルナール，ブリエ　主演
監督　ジヨルジユ，ロートネル
N.C.C提供
完全暖房　ひかり座